
びっくら東海村原発、放射能臨界事故^{りんかい}

- - I'm a Red Signal man(2) - -

作詞 / 山田博士 作曲・歌 / 宇都宮翔

(電話のプッシュ音) ピピパ。ルルルルル……。 「はい、119番です」「こちら住友金属鉱山ですが、建物内で、人が倒れました。救急車をお願いします」「どうしましたか」「詳しくは分かりませんが、て・ん・か・んで、倒れたと思われます」「意識はありますか」「ありません」「では横向きに寝かせて、嘔吐(おうと)に気をつけてくだ……」(ピーポ、ピーポ、ピーポの音が重なり、途中で少し大きくなって、まただんだん小さくなってゆく)

(風の音) I'm a Red Signal Man I'm a Red Signal Man

「こ、こんなこっと、お、おら、しんじねえぞ。し、しんじねえぞお」

お前は今日もうつろな目をして コンビニなんかで時間を溶かす
灰色だらけの食べものだけは 食うなと言っても知らん顔
自分のいのちが傷つくことを 知らなきゃ他人のいのちのことも
気がつくはずがないではないか お前のお尻に火がついた

I'm a Red Signal Man I'm a Red Signal Man

「こちら JCO です。東海村役場でしょうか。うちの職員は全員退避しました。施設から500メートル以内の住民を至急、退避させてください」(サイレンの音が鳴り響く)

青い光が体に刺さり 作業の男が突然うめく
誰もが「まさか」と思ったことも 起これば「やはり」と誰もが思う
国も県も村も会社も 互いに指で指(さ)し合うばかり
初めて起こった臨界事故も お前の瞳にや映らない

I'm a Red Signal Man I'm a Red Signal Man

「1999年9月30日午前10時43分。日本で初めて起こった臨界事故。作業員が運び込まれた事故直後の病院の話では、『……リンパ球の減少度から、重症の2名は10シーベルトを越す可能性があり、致死率はおそらく……』」(ピーポ、ピーポ、ピ

ーポの音)

悲しいじゃないか悲しいじゃないか 悲しいじゃないか悲しいじゃないか
人のいのちをバケツですくう そんな姿が悲しいじゃないか
こんな低いレベルの事故が 高いレベルの施設で起こる
臨界・限界・妖怪・破壊 お前も声をあげんかい
I'm a Red Signal Man I'm a Red Signal Man

(アナウンサーの声)「お昼のニュースです。2001年1月から、ドイツ政府は、使用済み核燃料の再処理を禁止することになりました。また、新規の原発建設は一切認めないとの方針を打ち出したもようです。日本では、原発によるコスト高の問題は、東京電力だけでも負債額が現在約10兆円にものぼっており、しかも高レベル放射性廃棄物のゆくえをどうするかということも含めてまったく見通しが立っておらず……」
(ピーポ、ピーポ、ピーポの音が重なり、途中で少し大きくなって、まただんだん小さくなってゆく)

(風の音) I'm a Red Signal Man I'm a Red Signal Man
臨界・限界・妖怪・破壊、お前も声をあげんかい。
臨界・限界・妖怪・破壊、お前も声をあげんかい

山田より：驚かないで下さい。地中深く埋められた高レベル放射性廃棄物は、120年後になっても水を一瞬にして蒸発させる熱さです。岩塩を溶かし、地下水と接触することになると、プルトニウムの臨界反応が地下で生まれ、原爆が勝手に生まれます。すべてを破壊し尽くしたあとの日本の光景を想像してみてください。

この歌の事件のあと、2007年7月に起きた新潟県中越沖地震。これが原因で発生した東京電力「柏崎刈羽原発」の放射能漏れ事故は、海外からも大いに注目される事態に発展しました。今後、この歌にあるような事態が各地で広がった後には、本当に日本列島には何が残るのというのでしょうか。